



相談センターだより

第 14 号 2014. 5. 発行

挑戦の先にあるもの

私の所属している教会には、パイプオルガンがあります。昨年の 2 月ぐらいから、いつかオルガニストになれたらという気持ちで、マイペースに練習をしていたのですが、急きょ今年 3 月のデビューが決まりました。1 回の礼拝で、小さい曲まで含めると 8 曲ほど演奏をします。40 歳を過ぎた私にとっては大きなチャレンジでした。幼いころからピアノは弾いていましたが、パイプオルガンは足も使います。もっと若ければ上達も早いのに、と思いながら必死に練習をし、何とかオルガニストとしてデビューすることができました。

年齢を重ねると“もっと若ければ……”と思うことが増えます。人間の成長は産まれてから 18 歳ぐらいまでは著しいものがありますが、18 歳を過ぎると、身体の成長はほとんど止まります。では、大人になるとすべての成長が望めなくなるのでしょうか？そうではありません。心理学者エリクソンは「人間は産まれてから死ぬまで、生涯に渡って発達する」という考えのもと、人間の一生（ライフサイクル）を 8 つの段階に分けて発達課題を設定しました。発達課題というと、子どもの成長でよく使われますが、大人にも発達課題が設定されているのです。最近では生涯学習という言葉もよく使われます。学ぶことは将来のためだけでなく、人の生涯においてどの年齢においても刺激になり、人の成長を促すものとなるのです。

新しいチャレンジをするときは、エネルギーが必要ですし、若い頃よりも習得、上達には時間がかかることもあるでしょう。でも、その先には、自分の知らない自分との出会いや成長があるはずです。私はこれからも、仕事の合間を縫って、パイプオルガンと格闘する日々を送ります。せわしない毎日ですが、空の彼方にいる私の大切な人たちに向かってパイプオルガンを弾ける日々感謝し、楽しみたいと思っています。

客員相談員 児玉さら

一口メモ

あんなに明るくて正しい光りに、
とてもぼくは耐えられない

石田衣良『うつくしいこども』より

弟が殺人犯になり一家で逃げ隠れる 14 歳の少年が、マスコミのライトに照らし出された自分の家を遠目にしながら呟いた言葉です。

ともすれば、私たち援助者も「明るくて正しい光り」でクライアントを射抜き、彼らを孤独に突き落としかねない。それを思い出させてくれる言葉です。

相談員 若本 純子